企業名：住友重機械工業

レポート名：　　統合報告書２０２１

1.　この会社が目指す姿が理解できるか

この会社が目指す姿は経営理念にある「一流の商品とサービスを世界に提供し続ける機械メーカー」、そして、社長メッセージにある「持続的成長と社会的価値拡大に貢献する企業」であると読み取れる。

まず、会社の目指す姿になる為に行っている取り組みの概要を p12,13 に図で示し、それ以降で各項目の詳しい内容を示すという構成になっている。「一流の商品とサービス」という強みについては主に p16~19 で述べられている。p18,19 では写真を添えて環境、社会に対する良い影響が 1,2 行で簡潔に述べられており会社の試みの理解に繋がるが、「極低温、超伝導、サイクロトロン応用」や「パワー半導体生産支援」が環境に対し、どのような良い影響をもたらすのか知識のない人には伝わりにくいと感じた。

次に、「持続的成長」という点に関して p20,21 のグラフと文章からはその展望が読み取る事ができない。成長を期待できるような経営案は見当たらず、ここからはむしろ将来への不安すら感じ取れた。「社会的価値拡大への貢献」については p8~11 に概要が示され、p24 からの事業概要の各セグメントの説明下部に順序立てられて説明されており、分かりやすい。しかし、p13 に達成に貢献する SDGs が挙げられているが、個々の取り組みがどの SDGs の項目とどう結びつくかについての説明が加えられると会社の社会的価値がより分かりやすくなると感じた。

総括として、「持続的成長」等一部伝わりにくい箇所が含まれるものの会社の目指す姿は概ね理解出来た。

2.　この会社の競争優位性が理解できるか

「一流の商品とサービス」と銘打っているが類似の製品を売る他社の製品と比較し、その商品やサービスが実際に優れているのかどうか、その技術が他社が模倣できず差別化できているのかどうか、製品のコストはどのようになっているのか等を理解する為の説明が乏しいように感じた。

しかし、p9 のグラフで示されているように特許の取得件数は概ね右肩上がりに増えているため、製品の独自性、ひいては会社の競争優位性に繋がるのではないかと感じた。また、コストの面で参入障壁が大きいことは、戦前から続く住友重機械工業の競争優位性になっている。

全体として、この会社の競争優位性を十分に理解出来たとは言えない。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

住友重機械工業は p53 にあるように専門分野の人材の育成を行っており、これはさらなる新技術の開発や特許取得数の増加に繋がり、それらに伴って他社との差別化が可能になるため、今後も競争優位性は保たれると考えられる。

さらに、重機械工業の参入障壁の大きさは今後当分変わる事がない為、この優位性は持続すると考えられる。

よって住友重機械工業の競争優位性は持続性があると理解できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

p52~57 を読み、自身の人的資本の価値向上にあたって住友重機械工業で働く事のメリットは経営人材を育てるプログラムが用意されている点と若手も責任のある業務に携わることが出来るという点であると考える。若手から裁量を持てるのは自身のスキルアップに大きく役立ち、その後のキャリアに良い影響を与える事は間違いないだろう。

しかし、その一方でデメリットとして自身の希望した仕事が出来ない可能性があるという点もある。仮に自身の希望した職につけない場合、モチベーションが上がらず、仕事の効率が下がり、希望した職であれば得ることが出来たスキルを身につけることが出来なくなる。

以上より、住友重機械工業で自身の人的価値の向上の達成は見込めるものの、自身が与えられる仕事に依るため不安も残る。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

重工業に関して人は当たり前にその知識を持っていないため、この業界に携わっていない人には分からない事の説明を短く簡潔に加える事でより分かりやすい物になると感じた。どこが知識を沢山持っていない人にとって不明瞭なのか会社側が分からない場合は学生(工学系を専攻していない者等)にヒアリングしてみるのが良いと考える。